壹岐名勝圖誌

池田

十

和書門
二九三九九 號
二二六 函
六 架
二五 冊

內閣文庫
和書 類
二九三九九 號
二五 冊
二二六 函
六 架

內一一〇六八號

地

內閣文庫

番號	和 29399	
冊數	25 (10)	
函號	176	166

綴じ部（喉部分）の文字など開きが不鮮明な箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

十

国立公文書館
National Archives of Japan

内一一〇六八號

壹岐名勝圖誌巻之十

石田郡池田村之部

續風土記云石田郷ハ属して東ハ石田堺土橋にかぎり西ハ志原堺坂谷限り三十町ばかり南ハ高尾ありて海濱ハ限り北ハ湯岳堺幡鉾川ハ限り二十一町ばかり周圍弐里拾七町廿七間ばかり此町数ハ今度量る所なり

周圍の名下口久保、八龍田、曲田、鎌田、野中、大船備前分、旗物原、枚川、率都婆崎、箏師川、津宮、土橋、江川以上深江石田之堺、郷喜、松嵜、小四郎瀬、宍渕、大四郎瀬、くづま瀬、鋤身崎、白瀧、久喜、江ノ川以上南海辺、帆島赤水、袴腰、絶断、九保川、坂本川、小市路、来本川、四反田

南
北
湯岳
川北
渋谷
佐原川
坂本川
関元川
一関
三関
新渡戸
久保
八丸田
西田
野中
大平
橋場分
駒場
大尾
大平
大明
大尾
新渡戸
三関
一関
関元
駒場
坂本
佐原
駒形
大尾
大平
大明
大尾
大平
橋場
橋場分
駒場
久保
八丸田
西田
野中
大平
橋場分
駒場

川、幡矛川、椋橋、以上志原湯岳深江三村の堺なり　南高く北低く〳〵て北風當山林
なりやいへども　伐薪乏〳〵く水田半八堤水かゝり半八旱損強
〳〵園圃四分一八上四分一八中半八三下稲小豆下大麥菘下ゝ小麥
大豆蕎麥麻木綿中郡中の狹邑也り南に海なりて和布搗和
布海松海蘿海鹿尾海栗加勢多〳〵村を池田と名付ある盜
鵶子尋ねに往古村中に池多〳〵年月を經てやゝ〳〵に埋り田と
なれり故ゆ池田といふ○壹岐巡云此村ゆ池下といふ所なり其
所ゆ龍ゝ閉ゝて深き閉なり今八埋りて閉もなく山中と
なる是池下の名によりて池田村と申次ゝ池とも池下の
名のゝ專とすつゝにあゝも今案るに池下田も町五反八畝
拾八歩池本田三反三畝廿八歩池尾田四反計畝廿八歩勉ゝ池田三反三
畝廿八歩池田七畝拾四歩上池田三反三畝拾三歩件の田麥く水池の
うゝまりてゆ色ゝ形りの意　以上風土記　今称ゝる所の里代名
上坂（カミサカ）　椿　真弓
村山　原　上池田
水田　古新合五十九町五反計畝六歩
高一千三拾四石三斗三合
火田　古新合七十四町二反五畝廿三歩
一高三百七拾石五計三外八合
民戸　貳百十三烟

口負六百八十六人　内男三百五十七人
　　内女三百廿九人

神社　廿一所　内一社宗社

佛閣　八ヶ所　内三ヶ所寺

堤十一ヶ所

庄屋　村中より少西北小建
　　巳午向

當庄屋より湯岳村まて廿八町半印通寺浦まて拾四町志
原村まて拾四町半武生水村まて壱里七町半勝本浦まて
三里拾四町

村山塘　属上池田免

土堰長廿二間横六間半水溜壱反九畝十六歩水田拾壱町高二
百六拾石ほかに用水なし

田崎山　属村甲東

此所むかし山にありて菴室あり田崎菴と
いひしとそ然るを天祥院鳥狩
の時菴室を椿の里に移し山をきらしめらる狩場ゟ能所なれハと
以後畠となりぬとしへり

可登　所謂神戸なるへし　属中觸

観音堂　在井手山　堂主傳記菴

本尊坐像長七寸唐土藥師阿弥陀各立像長三寸九分

堂　東向　桁二間　梁巾上

境内　東西拾六間南北十四間　周囲六十間

寄畠壱ヶ所蒔

庄屋

国立公文書館
National Archives of Japan

當堂むかし八室泉寺と以つるもの也

大屋里　一名大井氏　家居あり

八幡宮　在大屋　称本社

小祠　巳午向

拝殿　茅葺　魚上屋　桁三間　梁二間

社地　東西三間六尺　南北六間

境内　東西十四間南北二十八間　周圍壱町十六間

神島　三畝廿歩

古鰐口を拵銘云奉進入桑田庄八幡宮願主道満　寛正六乙酉年三春廿日

當社も一ハ今社地より南の島中にありしと以り神名記ゝ云津波幾八幡宮本社古来にて勧請年数知れず小社拝殿あり定祭九月廿三日ゝ或云万治三年の勧請氏

稲荷社　在門前

椿里　人家あり

大社大明神　在椿山　例祭九月廿二日

祭神大己貴命

石祠　艮向

古傳云高麗陣の時吉永某海上にて難風に逢い天地の神明に祈言て云今般日本の津小着しめ給ハゝ其着津の神をまつり氏神とせんと難風忽ち止て出雲國佐ゝ比と以所ゝ

著め故其所ゝて神躰を調へ帰國の後此所に杵築大社を勧請し則椿と名付しとそ中世まゝ其社の傍ゝ大なる松一株ありて諸方より眺望せしと然るに天祥院舊持の時田嵜なる田崎菴といふ梵刹を當社の境内に移さる故其松を伐て材木とせり自今以後九月廿二日の例祭の供御田崎菴より調進すべし

椿樹山傳記菴　有椿里　元田崎菴と云

木尊地藏共座像長さ弐尺五分

客殿　巽向　桁五間半　梁四間半　茅葺

廊下　桁計間　梁九尺　瓦葺

庫裏　桁四間半　梁三間半

境内　周圍一百二十四間

内寺地　東西十四間　南北十二間半

寺領畠四畝高四斗

鐘　高二尺三寸直さ弐尺六寸八歩　元文二年丁巳三月掛

當菴もゝしめハ田崎ふ下り故田嵜菴と以今此地ゝ移されて以後傳記菴と改む○寺居帳云池田村田嵜菴屋敷一所右先年寺領六反ゝ宛山ハ古岩義文和上建保三年乙亥とゝる

大屋堤　屬大屋免

土壇長廿七間横四間水溜六反九畝水田弐町壱反九畝廿九歩高
三十九石六斗六升壱合にかゝる用水なり

上坂里　家居なり

浦山古城　属上坂

當城跡石田村ゝ近ー東ハ庚申川ゝ限り西ハ出口道に限り
弐町三十四間南ハ舩底に限り北ハ上坂田ゝ限り弐町四十七
間二尺五寸頂上に日高安藝守の墓あり西向申酉方に上坂屋敷
なり　牧山氏居住り

神嶋大明神　在圓山　例祭九月九日

祭神市逸殿

小祠　寅向　玄本社未申可六町

拜殿　兼上屋　桁三間　梁二間　茅葺

山　東西廿三間半南北十四間余
周圍壱町四間五尺五寸

神畠三畝　高八升四合

當社ハ新社帳玄寛文十三癸丑年村中ゝより勧請といへり

山神　在同山

石祠　東向

同帳玄寛文二年壬寅村中ゝより勧請壱ヶ所

稲荷祠　同所

石祠　北向

鎮座年歴忘れたり

大石室山　屬上坂

此山東西三十四間南北七十四間計尺巓小大石多く其形室のごとし故に名とせり南ハ海に臨こて筑肥の列地遠望他に異なり

小石室山　日上

大石室の成立に隣る大石室よりハやゝ低し故に名とせり東西廿八間南北廿間計其中に周匝三間余高七尺三寸の石室あり自然如此の景地のあるも不可思議の事なり

印通寺浦　江川より西久喜浦江川に至り當村の海辺なり

然れとも松崎まてハ印通寺浦の部下にあるしなをく今こゝに畧きつ

小四郎瀬

村南の海濱にあり小白瀬の訛なるへし此所に長瀬くづま瀬あり各潮干に八濱と一リくれる長瀬竪廿七間横六間

大四郎瀬　小四良瀬に近し

大宗多濱　洋濱なるへし

鋤身崎　洋濱の西につゝく所なり

久喜浦　江川以東池田村に屬す　竪一百三十九間

海東諸國記に仇只浦廿余戸とあるせり今家居六十余戸とある

父喜浦

平瀬

国立公文書館
National Archives of Japan

夫木
思いやる姥ヶ懸なくきえ浦小社波のうもゆるてかへ〳〵光　隆季
月影をいかゝの波〳〵受えて　たけん為ふ久春の里人

立瀬　久木濱より四町斗沖ニ有り
東西七間南北七間周匝巾二間高拾間

平瀬　去立瀬東五十四間
東西二十八間三尺五寸南北十間周匝六十間高五間三尺余有り
里俗傳云如ハ海賊競來りし時一老女八巻して海
濱に出て夜討の賊有り平瀬殿立瀬殿のうせ殿も出給
へて機具をめし甲冑あさ引箭八束ありと
呼声を聞て海賊ありて紛けり故ニ此三瀬を称して
室瀬とるんいいなり

八大竜王祠　在龍渕
祭神大彦竜王大姫龍王埴安彦命埴安媛命之
石祠　辰向　去本社戌亥可九町
境内　東西十二間南北十二間余
周圍四十七間
當社ハ神名記ニ北原地神古來勧請年歴不知ニ〇壹岐巡
云池田村と云濫觴を尋るニ此村ニ龍ヶ渕として有り八大竜
王を勧請す神社帳ニハ地神と有り先年壹岐國ニ祈雨ある
時龍ヶ形を現して出たり人民をれをるを故ニ此所に八大
龍王を勧請す今來左様なる患なるのりて此八大竜王先年

八月九月の中五日に祭ありり今八町ゝゝ今八其間埋りて
ゝく此りゝ三ゝ日村大来免に八龍田とて壱町壱反四
畝廿四歩高拾五石八斗訪井訪合の水田あり
阿弥陀堂　在畔久留
本尊立像長壱尺六寸
堂　午向　二間方
境内　東西六間南北十四間
周囲二十八間
寄畠　壱畝
可見津堤　属真弓免
土壇長十四間横五間半水溜壱反壱畝池下免七町六歩高
一百六十五石訪井壱合真弓免の内三町七反六畝廿五歩高七十五
石八斗二合の水田に可ゝ用水ゝり
妙學院　在真弓
本尊不動明王立像長壱尺壱寸観音の古像長八寸斗
坊舎　巽向
當坊八宗勝坊の庶流ゝり
宗勝坊　在真弓
本尊不動立像長八寸服士観音坐像長五寸三分文殊座像
長二寸五分
坊舎　己午向

境内　東西六十間余
南北七十間余

辨天祠　在境内

厄祠　辰巳向

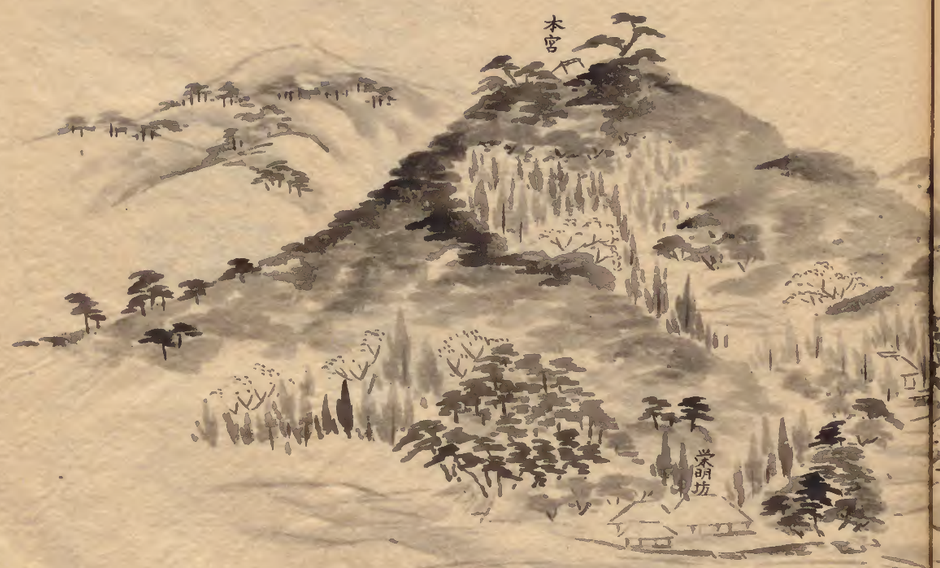
稲荷社　同上

神鏡長命富貴の文字ありし図のごとし

小祠　寅卯向

當坊八正治年中の冥基にて所謂彦山より來る修験三僧の
其一流なりけるとも系譜不詳宝徳年間幸清と云ふ以
來八連綿せり

真弓山



高山權現

富岡文庫
長命富貴
一

傳云むかし應永の頃志波壹岐守源義の代官ふ兵部大輔源武と
以ふ人ありし恐し〳〵八其人の居りし所なるん山の傍ふ館屋敷と
て巽向の地ありし其上段竪八間横四間半 中段竪三十間横九間半 下段竪十六間横卅間
各石垣をもて隔ち寸其下に方三十間余の平地ありし里老真
弓殿の居跡なるしいひ傳へたり
園田山 真弓山の申酉に近し
園田井 山の傍ふありし
井の傍ふ小窟ありし其中に竪三尺五寸横三尺 立石ありて面ふ六地藏
を彫付たり 各長五寸九分 此水涌旱ふて増減なく夏寒ふして冬ハ
温なりと以ふ村中第一の名水なり

地藏堂　在真弓　　堂主高瑞寺

本尊坐像長壹尺

堂　申酉向　桁二間　梁九尺　　茅葺

溜水川　　屬真弓免

源溜水より出て六地藏真弓山の裾を經て池下より田に入

凡十町計

藥師九　　屬西觸

宗像軍記云宗像大宮司領地於壹岐島藥師九水田廿町ゝゝ

石田郡藥師九領主讓状又領地依爭論今川殿裁許の状

左に記す妙尼の讓状ゝ最初に右件の所領ゝゝ所ゝ

其書條々紛失せしものゝ

右件の所領やうハめうあゝたゝ仏ゝちうたいそうてんの所

領やうにゝ尼ゝつしゝゝ

せんとおやこのちぎりをゝにゝてゝゝゝ

一ぶつ〳〵すたくいろんのそもからあるへかゝるほん
ゐうもんらふをいてはゐ年八月廿六日のよりん寺うく
さくあるとゝ世をいめゐろ世いさのてつき申つり状をもて
ほんせうもんとして有ゐうちメ〳〵伊こうまいのせう
ものを免ゝ申つり状如件
建徳二年正月十三日　尼めうりゐのゐたゐ仏在判

譲　千草野次郎殿所
壹岐嶋石田郷藥師九所職
田畠山野等事
右所領者長河相傳領掌之間

相制
今川殿御教書
宗像大宮司氏頼申壹岐國藥師九地頭職事数ヶ度被
仰處濱田安藝守及押妨狼藉之大不可然旁其咎左
所詮使節相妨任法可被沙汰付下地於氏頼代之状如件
至徳二年五月六日　沙弥在判
志佐壹岐守殿

同御教書
宗像大宮司氏重申壹岐國藥師九地頭職事度〻成成
敗之処尚以不事行之大不可然所詮山押妨之義可致

避渡下地（本ニ）於彼代之地加件

明徳三年十二月十五日　沙弥　在判

志佐寺岐守殿

榮明坊　在大山口　元本如坊と云ひしを文化二乙丑年改号栄

本尊不動立像長九寸三分

坊舎　己向

當坊ハ宗勝坊の庶流なり

照光坊跡　在東明坊西

本尊不動立像長八寸三分　但焼物今栄明坊に寄宿なり

當坊ハ妙學院の庶流なりと云

高山権現　在高山

祭神伊弉冊尊伊弉諾尊天忍穂耳尊

小祠　己向

拝殿　煎上屋　桁三間　梁二間　茅葺

御山　東西卦町九間南北卦町半　周圍七町四拾間

内参詣道麓より社頭まて八十六間

北山権現跡　去本社北卦拾間

東西八間南北三間余

社領畑三畝

供僧宗勝坊

當社八人皇九十二代後伏見院第六の皇子助有法親王豊前國

彦山ゝ院重ゝ給嘉暦三年霊夢によりて當國三山權
現勧請の其一ゝ社領も寄附ありゝよゝ其志ゝに
や今高山田とゝゝ水田五反八畝廿三歩高九石四斗三升三合
大屋免にあり又名越畠とゝゝ畑ゝより名越神樂
を奏ゝ奉ゝとゝそ中葉當山炎上ゝより北山權現八其
時焼ゝまゝ再興ゝとゝ云先年天祥院鷹狩の時當村
土の字田とゝゝ一所にて鷹を合されゝに鷹落るゝあとゝれゝ
故ゝ直に權現ゝ参り其田を寄附ゝ給時泉勝坊尤京
を召ゝて誠に此山ハ彦山を移せゝ霊社なり然れハ天下泰
平國家長久万民安全を祈ゝへゝと尓来尤京正五九月十五
日参篭ゝて國家安穏武運長久子孫栄昌の祈禱をゝなゝ
ゝと今に至りて断絶ゝなゝとゝ（以上風土記の意）○神社帳云真弓高
山權現古来勧請年数不知小社拝殿ゝより定祭九月十五日ゝ

山神　在高山

石祠　南向

境内　方五間　周廿間

溜水塘　属真弓

土壇長廿間半横六間水溜三反

同所上坡

土壇長廿間横五間半水溜訪反水田拾壹町高一百三十五石

にかゝる用水ゆり

山神　在大田五

石祠　巳午向

境内　東西七間半南北九間壹尺
周圍三十三間五尺

池田古城

村の南にありて東西八峯つゞき南ハ海に臨み北ハ谷深くして甚高地所なり故城の名ありしと見るべし城地の跡ゝゝゝ

辻堂　一名地藏堂　在可戸分云峯菴　堂主正傳菴

本尊跪像長壹尺七寸五分古仏十軀ヨリ

堂　巳向　桁八尺　梁壹間　茅葺

境内　東西十八間半南北九間　周圍一百八間

矢保左祠　在村山

石祠　丑寅向

境内　東西七間南北六間　周圍卅十二間

貴布祢社　在村山

祭神高龍留神大山祇神

小祠　辰巳向

拜殿　桁二間四尺　梁二間　茅葺

山　東西廿六間南北廿六間半　周圍壹町四十間　竪十二間横十間　有神山傍

神畠

當社八神社帳云年羅山貴布祢大明神古来ニテ勸請年数不知小社ヨリ定祭十月十五日ヲシ

渡瀬坡　屬上池免

土壇長廿壹間廣六間半水溜三反廿四歩水田壹町六反高三十二石ニカヽル用水ヨリ

稲荷祠　在上池田

石祠　未申向

七郎權現
正傳庵

国立公文書館
National Archives of Japan

吉祥山高瑞寺旧名幸隨寺　在上池田

本尊薬師如來坐像長七寸眼士日光月光各立像長六寸二分

客殿　南向　桁四間　梁三間半　茅葺

庫裡　桁三間半　梁二間半　茅葺

境内　東西一百拾間南北三十間　周圍三百間

内寺地　東西拾二間　南北八間

寺産四畝高四斗

當寺八安國寺ゟ引て開山安國中林和尚ゟ之永禄田帳

云三反幸隨寺ゟ

上池田里　人家ゟ

池田　屬上池田免

此田七畝十四歩元池ゟ引ゟ出ス一村の

名ゟ出ス地名ゟ

七郎權現　在神峯又神川ト云　例祭九月廿八日

一名七良健児宮

小祠　己午向

拜殿　桁三間五尺　梁二間　茅葺

人馬塚　去拜殿南十三間

天保壬辰四年八月標塔を建高壱丈三寸

方三尺三寸

山　東西十二間南北十四間二尺余

周圍五十五間

神田　二反壱畝拾七歩　毎歳例祭稲二把調進ス

神畠　二畝

當社ハ古老傳云むかし檢地ありし時奉行正傳菴にて饗應ありし礒今の社の辺にしかしかなり然るに酒宴いと長ければ礒待つかねて熟睡せし其間なほ馬放ちて其近辺の田實(イネ)を喰しかく時奉行見て其礒を手擲せし礒名ハ七郎怒りて馬を殺して己も又自殺せし故七郎と馬とを一所に葬る以後或ハ往来の人を害やせし或ハ夜に入る紀牛馬を産ハとかり時の人大きに驚き神廟をとり齋て神とせり因て七郎權現と称せ其馬の稻を喰しかく田ハ今の鳥居ありし六間東にかり七郎神田と云ふ此地及

高一丈十七歩
四名寺社七本七合

神峯山正傳菴　在原

本尊聖觀音坐像長壹尺二寸

古客殿　辰向　桁五間　梁三間半　茅葺

今廊下　寺間半方

今庫裡　桁四間半　梁三間半　茅葺

嘉永三戌年焼失せり其後庫裡廊下再建かり客殿も再建かり

今庫裏　桁五間半　梁三間　茅葺

廊下　桁二間　梁九尺　瓦葺

鎮守辯天祠　在境内

祠　　桁壱間　梁八尺四寸　瓦葺

鐘　高二尺三寸　亘壱尺九寸　弘化三丙午年冬鋳之

寺地　東西十五間　南北十壱間半

山　東西壱町十壱間　南北壱町三十六間　周圍三町十五間

寺領高四斗　五畝十歩

當寺八星中徳重元天文九年屍山ヨリして老松山の寺流なり石志三九郎殿の夫牌當寺にのり繡谷宗綿大居士と謚古塚ハ

尤保志原にのり

稲荷祠　在上池田

石祠　巳向

上屋　桁壱間　梁壱間五寸　瓦葺

當社八村中より祭る所なり

坂本川　屬村西志原畏

源左保より出て坂本小市呂東本平田四反田を經て幡豆川に落入凡九町四十六間

田嶋大明神　左小市呂

祭神三女神　雄武王なり

石祠　北向

境内　東西廿壱間南北廿間　周圍壱町壱間余

當社八石田村老松天神の摂社と云むかしハ大社なりしやや

来本に田嶋田とて壹町四反許拾八歩高許拾壱石六斗許下六
合の水田なり其外他村かも田島田といふ所多〳〵當社の
神領の時の名残り〳〵なるべし
小布呂新坡　属坂本免
土堰長六十七間廣六間水溜三反余坂本免水田三町壱反八畝廿
七歩高五十七石九斗八合平田免水田四町壱反四畝拾九歩高五十七石
三合にかゝる用水なり
幡多川落合　湯岳堰なり村の北
無頭堤　属大町免乾池とも
此坡土堰長廿八間横四間半水溜五反許畝同免水田六町高一百三
十石にかゝる用水なり〳〵かと近年水口変〳〵て乾池となりぬ
新堤　属大来免
封彊長廿間横七間水溜三反八畝八歩與水大町免六町壱反九畝十
歩高一百七石七斗七升四合大来免拾五町七反許畝三歩高一百九
十五石六斗三升四合にかゝるなり
一の閘
二の閘
三の閘
件の三閘共に村の乾（イヌイ）の方にありて小高き所なり里老伝云普
兩郡の衆海なり〳〵時の異所の跡なるべし此所なり巽（タツミ）方なり

国立公文書館
National Archives of Japan

大町免と云ふ地も廣く昔ハむかしハ家居も多かりしかとも三貫
各相去りて三町斗にして無ひたる地なり今ハ畠中に僅の
小松の森とそれ迄なりしなり

頼母塘　屬大乘免

封疆長三十六間横四間水溜三反八畝水田拾六町高二百石にか
る用水なり

六御前　在清水

百祠　西向

阿弥陀堂　在清水

本尊座像長四寸三分

堂主傳記菴

堂　南向　九尺方

境内　東西六間半南北六間半
周圍二十七間

寄畠　壹畝

池本田　屬池下免

むかし池あり衛と埋りて水田となり故に名とす池
尾池下の名とされ如四しと

鮑池　屬同免

今ハ三反三畝廿二歩の水田なり昔むかし海なりし時也
ハ鮑の居たる名なりて田の中に残りなくして耕の時牛
あとえ通りかたしとそ清水砂を含りて涌出せり又此

辺に中嶋大船ゐとゝゐる田あり近世此勉ゝ池とゝゐ小田の底よ
り帆柱やゝ北折木をゐり出せ〳〵ゝゝ實に海あり〳〵時世
も思ひ出らゝゝ所なり

柳蓋堤　屬大来免

一　封禮長二十間横五間水溜西又五畝同免水田訓町八反高三
十五石にかゝる用水なり

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan